

8番 坂本 昇でございます。

通告に基づき、次の2点についてお伺いします。

8月12日に岩手県に上陸した台風第5号は、記録的な大雨をもたらしました。お盆中にも関わらず住民の生命と安全を守るため、中居町長はじめ職員のみなさんの昼夜に及ぶ対応に対し敬意を表するものであります。甚大な被害をもたらした台風でありましたが、人的被害がなかったことは、日ごろの訓練、早め早めの対応が功を奏したものと感じております。

1点目の質問であります。今回の台風により被害を受けた、褰綿や松橋の水源施設、町道鼠入川線や町道沢廻線等の道路決壊・洗堀などは、台風や大雨の度に同じ個所で被害が発生しており、復旧工事のみでなく改善を図る対策を講じる必要があると思っておりますが、その考えについてお伺いします。

また、今後も気候変動に伴う異常気象、集中豪雨による洪水や土砂災害などが想定され、その際には早期避難が求められます。今回の台風では、孤立した世帯、集落がありました。防災ヘリの出動や救助隊による救助も目の当たりにしたところでもあります。

直近の10年間でも、平成28年の台風第10号や令和元年の台風第19号、そして今年の台風第5号などの直撃を受けており、どのぐらいの雨量でどの集落が孤立する恐れがあるか想定し、対策を講じられているものと拝察します。

そこで、今回の早め早めの対応はもとより、最悪の事態を避けるため、避難指示の的確さに加え、土砂崩れや洪水・増水による孤立が想定される住民に対し、早期避難を個別に促し、早期避難の実効性を高め、二次災害の防止に努めるべきと考えますが、その対応について伺います。

次に、小・中・高校生の提案の活用について伺います。

岩泉高校では、毎年、総合学習の一環としてK I Z U K Iプロジェクトに取り組み、地域や企業の課題解決を目的とした探究、進路と自己実現を見据えた探究活動を行い、研鑽を積んでおります。本年度も3学年の発表会が開催され、40名の生徒が人口減少や物価高、子育て、災害復興、そしてまちの活性化計画など40項目にわたる進路探究を行い、発表しておりました。

岩泉高校ではほかにも、岩泉中学校とは「地域復興支援郷土芸能フェス」での共演、岩泉小学校には2学年生徒が出向

き、「ジオラマ防災マップを活用した防災教室」なども行っておりです。

また、岩泉小学校では、6年生の子どもたちが社会科学習の一環で岩泉のまちづくりを考え、「子ども議会」と題して発表会が行われました。参加した総務常任委員に対して、グループごとに考えた「綺麗でカラフルな町」「観光客が訪れる町」「色んな世代が遊べる町」などの提案発表があり、その後ワークショップを行いました。どれも大人目線では見過ごしがちな、子どもならではのまちづくりの工夫がなされておりました。

当町では、数年前まで中学生議会が行われ、子ども達の貴重な提案の機会がありましたが、現在は行われておりません。

そこで、中学生議会の代わりに、これら高校生や小中学生の発表に町の三役を筆頭として課長等幹部職員が積極的に参加し、研究・提案事項に目を向けて、次代を担う子どもたちの目線を生かしたまちづくりを行う必要があると思いますが、その考えについてお伺いします。

さらには、対外的にもこれらの取組を情報発信することで、岩泉高校の魅力の発信にもなり、山村留学などにも結び付き、ひいては、岩泉高校存続の力になれるものと思われまますので、

その対応についてお伺いします

以上で、本席からの質問を終わります。

8番 坂本 昇 議員の御質問にお答えします。

初めに、本年8月12日の台風第5号で被災した水源施設に係る対策についてであります。袋綿と松橋の水道施設は、今回の台風により大きな被害を受けたところであり、袋綿水道施設においては8月13日から約3日間の断水が発生しました。

お盆期間中でもあったことから在宅の方々も多く、また実家に帰省等をされた方もいる中で、皆様に大変な御不便をおかけしたところでもあります。

議員御指摘のとおり、今回被災した両施設とも過去に同様の被害が発生しているところであり、原形復旧を原則とする災害復旧事業では、今後においても同様のケースが懸念されますことから、どのような対策がどこまで必要なのか、技術的な部分も含め調査研究を進めているところであり、その結果を踏まえ、財源の確保と併せて、関係機関等と検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、道路施設であります。町道鼠入川線につきましては、平成28年台風第10号の豪雨災害により復

旧した河川兼用護岸が再度被災し、また町道沢廻線におきましても、昨年8月の大雨により冠水した箇所では被害が生じたところであります。

町道鼠入川線は、護岸崩落で通行止めとなり、町道笹平線の迂回を余儀なくされ、町道沢廻線では、長期間通行止めとなるなど、大変御不便をおかけしたところでありますが、現在は応急工事を終え、通行止めは解消しております。

議員御提言の台風や大雨被害の再発防止策についてであります。町道沢廻線は、現在県が進めております河川改修事業において、河川断面の確保のほか護岸の機能補強を施工することで、防災・減災につながるものと期待しております。

また、町道鼠入川線など災害復旧事業を実施する路線では、再度の災害防止につながる対策工法について、現地の状況を踏まえ、県や関係機関とも十分に検討してまいりますとともに、同様の災害を繰り返さないための新たな災害復旧制度の創設などを国に要望してまいります。

次に、孤立が想定される住民に対する避難対策につい

てであります。今回の台風第5号におきましても、指定避難所の早期開設や避難指示等を適時に発令するなど、過去の災害の経験を教訓に、早め早めの対策・対応を取ったところでもあります。

住民への周知につきましては、ぴーちゃんねっと、防災メール、防災行政無線、町公式LINEなど、あらゆる媒体により、早期避難や注意喚起を繰り返し呼び掛けたところであり、町内10か所に開設した指定避難所には、128世帯、212の方が避難されました。

また、自主防災組織が自主的に19か所の公民館を解放したことにより、11世帯、21の方が避難されたことも確認しております。

孤立が想定される住民や、一人暮らしの高齢者などに対しましても、町が直接避難の呼び掛けをするとともに、消防団や自主防災協議会による避難の呼び掛けについても、再三にわたり行いましたが、一時的に3集落5世帯13人が孤立状態となったところでもあります。

今後におきましても、引き続き、消防団、自主防災協議会、防災士などを中心とした地域コミュニティの

強化を図りながら、災害リスクの高い世帯に対しましては、危険が迫る前に、早期避難の呼び掛けを徹底し、さらには住民個々の避難意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

次に、子どもたちの目線を生かしたまちづくりについてであります。議員御案内のとおり、岩泉高校で例年取り組んでいる「K I Z U K Iプロジェクト」におきましては、8月に岩泉小学生を対象に防災教室を実施するなど、高校生の視点で地域の課題解決を考える探究学習に積極的に取り組んでおります。

また、町内の小中学校などでも、岩泉高校と同様に様々な学習を通して、まちづくりに資する活動を行っているものと承知しております。

中学生議会は、3年前に一区切りをつけておりますが、その後も小中学校や岩泉高校においては、積極的に地域課題に向き合いながら活動していただいております。たいへん頼もしく感じているところであります。

子どもたち目線での探究・気づきは、大人では気づかない視点が数多くあり、そのようなアイデアも積極

的に取り入れたまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、「K I Z U K I プロジェクト」を始めとした、様々な活動の場に、町としても積極的に参加し、児童生徒の目線でのアイデアに耳を傾けてまいりたいと考えております。

また、児童生徒が考えたアイデアについては、「町民アイデア実践支援事業」の補助金も活用できますので、自らのアイデアを自らが実践することで、成功体験を肌で感じ取ってほしいと思っております。

このような取組の積み重ねが、町内小中学校や岩泉高校の魅力アップにもつながるものと考えておりますので、町内外へ積極的に情報を発信しながら、岩泉高校への進学促進にもつながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。